

令和 7 年 8 月 2 9 日

令和 7 年千葉市教育委員会会議第 8 回定例会

[参考資料]

議案第 2 6 号関係	・ ・ ・ ・ ・	1
議案第 2 7 号関係	・ ・ ・ ・ ・	5
議案第 2 8 号関係	・ ・ ・ ・ ・	7
議案第 3 1 号関係	・ ・ ・ ・ ・	9

千葉市社会教育施設保全計画〔公民館・図書館〕の概要

1 計画策定の目的

本計画は、「千葉市公共施設等総合管理計画」の個別施設計画として、公共施設を取り巻く現状と課題を総合的に踏まえ、中長期的な視点から、今後見込まれる施設の維持・更新コスト、将来の財政状況を勘案し、社会教育施設を適切に維持できるよう、対応方針等を示すことを目的とする。

(1) 計画期間

令和 7（2025）年度～令和 16（2034）年度の 10 年間

※3 年程度を目安に計画の中間見直しを行うこととする。

(2) 対象施設

公民館 47 施設、図書館 14 施設（中央図書館を除く）の 計 61 施設

2 再整備の方針

(1) 基本的な考え方

ア 「千葉市公共施設等総合管理計画」が示す基本的な考え方や、公民館と図書館の今後の役割や目指すべき姿を踏まえ、施設ごとの状況に応じ、適切な対応方針を検討。

イ 対応時期は、特定の時期に財政支出が偏らないよう配慮しながら、施設毎の建築年度の古い順を基本とし、資産の有効活用に向けた利用調整の状況や近隣公共施設等の整備予定状況、施設・設備の劣化状況等を踏まえ、総合的に判断。

ウ 施設の総量（総延床面積）は、再整備を行う際に「千葉市公共施設等総合管理計画」の目標に準じ、施設規模のコンパクト化を図る。

(2) 再整備手法検討の流れ及び優先順位の考え方

ア 建替え（複合化、単館建替え、集約化）により再整備する施設

・以下の①を基本としつつ、②及び③にも配慮しながら総合的に判断。

① 建築年度が古い施設

② 資産の有効活用に向けた利用調整が整い、対応方針が決定した施設

③ 学校跡地利活用など、近隣公共施設等と一体的に再整備することが市民サービスの維持向上及び財政負担の平準化に寄与すると考えられる施設

・近接する複数の施設で、同時期に休館などの利用停止が伴う再整備は行わないよう配慮。

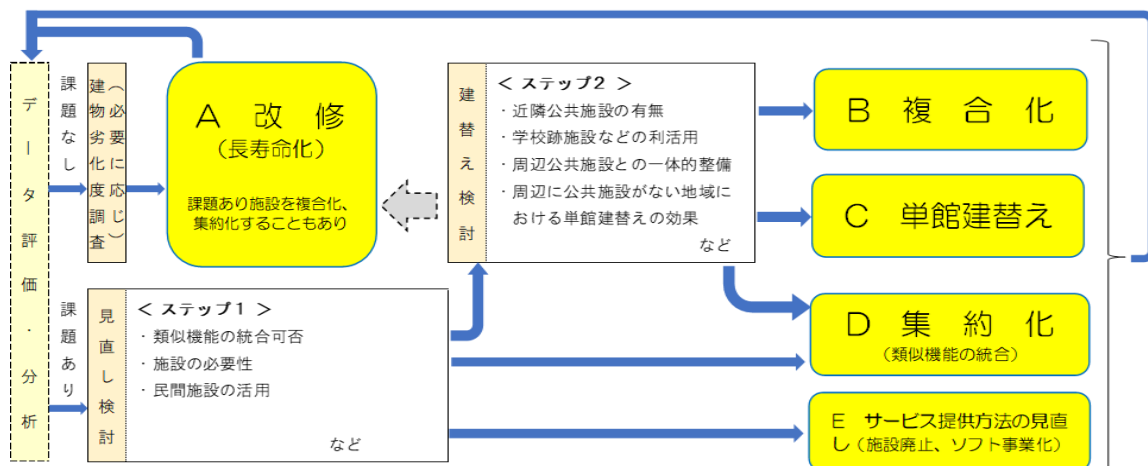
・施設、設備に不具合が発生するなど、早急に対応する必要が生じた施設については、再整備を行うまでの間、利用者の安全面に配慮し、施設維持に必要な修繕を行う。

イ 改修により長寿命化を図る施設

・築年数順を基本に、築後 20 年及び 40 年を目途に空調改修等の改修、築後 30 年を目途に大規模改修により対応。

＜再整備検討フロー＞

フローに沿って施設毎に検討を行い、A～Eにより対応する。
また、利用者の安全面に配慮し、随時、施設維持に必要な「修繕」を行う。



注：「A 改修」には大規模改修を含む。

注：「建替え検討」では、まず、複合化の可否を検討し、可能な場合は「B 複合化」により対応する。

3 対象施設ごとの対応方針

利用調整や施設、設備の不具合の状況等を踏まえ、対象施設、対応方針、事業着手時期が変更となることがある。

（1）計画期間中に建替えにより再整備する施設

公民館：12 施設、図書館：4 施設 計 16 施設

Nº	区	施設名	所在地	構造	床面積 (㎡)	築年数 (R7.4.1)	優先順位 考え方	事業 着手	再整備の 方向性
1	若	千城台公民館	若葉区千城台西2-1-1	鉄筋コンクリート造	1,033.88	52年	①、②、③	前期	B 複合化
2	若	若葉図書館	若葉区千城台西2-1-1	鉄筋コンクリート造	1,146.91	50年	①、②、③		
3	緑	椎名公民館	緑区富岡町290-1	鉄筋コンクリート造	419.89	50年	①、②、③		B 複合化
4	緑	緑図書館土気図書室	緑区土気町1634	鉄筋コンクリート造	196.00	55年	①、②、③		
5	緑	土気公民館	緑区土気町1631-7	鉄筋コンクリート造	501.88	43年	②、③		B 複合化
6	中	みやこ図書館白旗分館	中央区白旗1-3-16	鉄筋コンクリート造	548.00	51年	①、③		
7	花	花見川公民館	花見川区柏井町1590-8	鉄筋コンクリート造	604.27	50年	①、③		
8	若	加曽利公民館	若葉区加曽利町892-6	鉄筋コンクリート造	405.00	49年	①		
9	中	葛城公民館	中央区葛城2-9-2	鉄筋コンクリート造	415.56	53年	①	中期	「B 複合化」 を優先的に 検討
10	中	川戸公民館	中央区川戸町403-1	鉄筋コンクリート造	403.84	51年	①		
11	中	末広公民館	中央区末広3-2-2	鉄筋コンクリート造	410.15	52年	①		
12	中	椿森公民館	中央区椿森6-1-11	鉄筋コンクリート造	403.58	51年	①		
13	中	星久喜公民館	中央区星久喜町615-7	鉄筋コンクリート造	405.01	48年	①	後期	
14	稲	千草台公民館	稲毛区天台3-16-5	鉄筋コンクリート造	505.13	46年	①		
15	若	若葉図書館西都賀分館	若葉区西都賀2-8-8	鉄筋コンクリート造	762.04	50年	①、③		
16	若	みつわ台公民館	若葉区みつわ台3-12-17	鉄筋コンクリート造	606.50	43年	③		

(2) 計画期間中に改修により長寿命化を図る施設

公民館：15 施設、図書館：1 施設 計 16 施設

Nº	区	施設名	所在地	構造	床面積 (㎡)	築年数 (R7.4.1)	事業 着手
1	稲	小中台公民館	稲毛区小仲台5-7-1	鉄筋コンクリート造	948.43	35年	前期
2	稲	轟公民館	稲毛区轟町1-12-3	鉄筋コンクリート造	773.64	23年	
3	稲	黒砂公民館	稲毛区黒砂2-4-18	鉄筋コンクリート造	767.31	21年	
4	中	新宿公民館	中央区中央区新宿2-16-14	鉄筋コンクリート造	1,201.00	20年	
5	美	高浜公民館	美浜区高浜1-8-3	鉄筋コンクリート造	584.99	37年	
6	中	宮崎公民館	中央区宮崎2-5-22	鉄筋コンクリート造	1,173.33	26年	
7	花	検見川公民館	花見川区検見川町3-322-25	鉄筋コンクリート造	576.48	45年	
8	若	若松公民館	若葉区若松町2117-2	鉄筋コンクリート造	507.71	42年	
9	緑	緑図書館	緑区おゆみ野3-15-2	鉄筋コンクリート造	1,940.06	25年	
10	美	稲浜公民館	美浜区稲毛海岸3-4-1	鉄筋コンクリート造	568.47	39年	中期
11	中	生浜公民館	中央区生実町67-1	鉄筋コンクリート造	702.88	33年	
12	花	幕張公民館	花見川区幕張町4-602	鉄骨造	1,213.38	32年	
13	花	花園公民館	花見川区花園3-12-8	鉄筋コンクリート造	914.79	31年	後期
14	花	幕張本郷公民館	花見川区幕張本郷2-19-33	鉄筋コンクリート造	636.67	30年	
15	若	桜木公民館	若葉区桜木3-17-29	鉄筋コンクリート造	798.35	29年	
16	緑	誉田公民館	緑区誉田町1-789-49	鉄筋コンクリート造	1,609.13	29年	

4 その他

(1) 各手続実施時期

- ア 調整会議 令和7年1月14日
- イ 政策会議 令和7年1月28日
- ウ 記者発表 令和7年4月15日
- エ パブリックコメント手続 令和7年4月16日～令和7年5月16日

(2) パブリックコメントの主な意見と対応

計画に反映した意見：3件

※反映した意見

	意見	対応
本編 P5 第 2 章 社会教育施設の現状	1 社会教育施設を取り巻く状況 1 社会教育施設を取り巻く状況において、(1) 人口動向、(2) 世帯数及び平均世帯人員が示されているが、社会教育施設の対象である公民館及び図書館の利用者数推移状況も示していただきたい。 社会教育施設について、既存施設の有効活用や民間施設の活用を図る判断材料データになると思う。	P27 に、公民館・図書室の利用状況が掲載されている資料のリンク先を記載。
本編 P18 第 3 章 社会教育施設再整備の基本的な方針等	2 対象施設ごとの対応方針 (1) 計画期間中に建替えにより再整備する施設 再整備の方向が、「B 複合化」、「B 複合化」を優先的に検討、しかなく違和感がある。次の p. 19 と同じように、下の空欄部に＜再整備検討フロー＞を入れたほうがよいと思う。このページだけをみると、「複合化」の言葉しかないので、「複合化ありきか」と読んでしまう可能性がある。	P18 下段に、P12「再整備検討フロー」を再掲。
本編 P18. 19 第 3 章 社会教育施設再整備の基本的な方針等	2 対象施設ごとの対応 (1) 計画期間中に建替えにより再整備する施設 A 改修と B 複合化はでているが、C 単館建替え、D 集約化の記載はない。 この部分について、C と D の可能性についても、記載しておいたほうがよいのではないか。	P18 下段に、P12「再整備検討フロー」を再掲。

千葉市立小学校及び中学校管理規則の一部を改正について

学校教育部 学事課

1 改正の趣旨

現行の管理規則では、平日 3 日または 4 日勤務で新学期を迎える。休業日とはいえ、教職員にとっては年度始めに確認しなければならない事項が多数あり、職員会議や学年ごとの会議、校務分掌ごとの会議、教科ごとの会議など、必要な業務が詰め込まれている現状がある。また、今日の学校では、配慮を要する児童生徒が増えているため、毎年クラス替え(学級編成)を行う学校が増えており、教職員は、担当する児童生徒のことを把握するため、引継ぎの時間を十分にとる必要があるが、現状では、そのような時間の確保ができていない。特に、転入職員や新規採用者、講師などが担任を受け持つ場合、その学校のやり方に慣れるための時間や学級開き、教科指導の準備の時間も必要となる。教職員がゆとりを持って新年度子どもたちを迎え入れることができるようにするためにも、学年始め休業の見直しが必要である。

2 改正の概要

学年始め休業日を「4 月 4 日まで」から「4 月 7 日まで」に改める

【参考】

改正前

千葉市立小学校及び中学校管理規則(休業日)

第 19 条の 2 学校教育法施行令第 29 条の規定に基づく休業日は、次のとおりとする。

- (1) 学年始め休業日 4 月 1 日から 4 月 4 日(当該期間中に日曜日及び土曜日がある場合にあっては、4 月 5 日)まで
- (5) 学年末休業日 3 月 25 日(当該年度における学年始め休業日の末日が 4 月 5 日である場合にあっては、3 月 26 日)から 3 月 31 日まで

改正後

千葉市立小学校及び中学校管理規則(休業日)

第 19 条の 2 学校教育法施行令第 29 条の規定に基づく休業日は、次のとおりとする。

- (1) 学年始め休業日 4 月 1 日から 4 月 7 日まで
- (5) 学年末休業日 3 月 25 日から 3 月 31 日まで

3 施行期日

令和 8 年 4 月 1 日

千葉市立特別支援学校管理規則の一部改正について

学校教育部 教育支援課

1 改正の趣旨

現行の管理規則では、平日3日または4日勤務で新学期を迎える。休業日とはいえ、教職員にとっては年度始めに確認しなければならない事項が多数あり、職員会議や学年ごとの会議、校務分掌ごとの会議、教科ごとの会議など、必要な業務が詰め込まれている現状がある。また、特別支援学校は、障害や特性ゆえのたくさんの困難さを抱えている児童生徒が在籍しており、教職員は、担当する児童生徒のことを理解するため、引継ぎの時間を十分にとる必要があるが、現状では、そのような時間の確保ができていない。特に、転入職員や新規採用者、講師などが担任を受け持つ場合、その学校のやり方に慣れるための時間や学級開き、教科指導の準備の時間も必要となる。教職員がゆとりを持って新年度子どもたちを迎え入れることができるようにするためにも、学年始め休業の見直しが必要である。

2 改正の概要

学年始め休業日を「4月4日まで」から「4月7日まで」に改める

【参考】

改正前

千葉市立特別支援学校管理規則(休業日)

第4条の2 学校教育法施行令第29条の規定に基づく休業日は、次のとおりとする。

- (1) 学年始め休業日 4月1日から4月4日(当該期間中に日曜日及び土曜日がある場合にあっては、4月5日)まで
- (5) 学年末休業日 3月25日(当該年度における学年始め休業日の末日が4月5日である場合にあっては、3月26日)から3月31日まで

改正後

千葉市立特別支援学校管理規則(休業日)

第4条の2 学校教育法施行令第29条の規定に基づく休業日は、次のとおりとする。

- (1) 学年始め休業日 4月1日から4月7日まで
- (5) 学年末休業日 3月25日から3月31日まで

3 施行期日

令和8年4月1日

I 教育委員会の事務の点検・評価制度の概要(報告書 P1・2)

- 1 対象年度

2 法令上の根拠

3 評価方法
- 令和6年度
地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条
教育委員会の権限に属する事項について、教育委員会が自らの事務の適切な執行について確認するとともに、点検・評価を行うに当たり、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図っている。

※評価委員 学校教育分野：小橋 暁子（こばし さとこ）氏
千葉大学教育学部准教授 専門：造形教育学

生涯学習分野：岩崎 久美子（いわさき くみこ）氏
放送大学教授（前国立教育政策研究所総括研究官） 専門：生涯学習政策

- 4 重点的に評価する事業〔令和 6 年度の新規・拡充事業等から4つの事業を重点的に評価した〕
※()は評価委員が視察・ヒアリング

学校教育分野 ・スクールメディカルサポート事業(千草台東小学校)
・教頭マネジメント・サポーターの設置(真砂中学校)

生涯学習分野 ・科学教育の推進(千葉市科学館)
・縄文文化などへの理解・関心の向上(千葉市埋蔵文化財調査センター)

II 教育委員会の活動状況(報告書 P3・4)

- 1 教育委員会会議を 14 回開催し、43 件の議決を行った。

2 施設や行事の視察等を行い、事業の実施状況や、様々な課題について把握し、教育委員会会議における審議に生かした。

(1)学校行事への出席
千葉市小・中・特別支援学校児童生徒作品総合展覧会(科学部門)、小学校陸上大会 他

(2)各種イベントへの出席
未来の科学者育成プログラム、子ども議会、中学校生徒会交流会、科学フェスタ 2024 他

(3)教員等の研究会や研修会への出席
教職員教育研究発表会、研究指定校研究報告会、長期研修生(委託研修生)研究報告会

(4)その他
教科書展示会、教育功労者表彰式
- 3 広報・広聴活動、意見交換会等について
教育相談に関わる職員と教育委員との意見交換会

4 総合教育会議について
総合教育会議では、教育に関する大綱の策定や教育の条件整備など重点的に講ずべき施策、児童・生徒等の生命・身体 の保護等緊急の場合に講ずべき措置について、地方公共団体の長と教育委員会で協議・調整を行う。
昨年度の総合教育会議は、「不登校対策」「ICT を活用した教育」「教育大綱における重点項目関連事業等の進捗状況」について議論を交わした。

III 点検・評価の結果(報告書 P5～P113)

- 1 教育委員会による自己評価
学校教育分野は「第3次千葉市学校教育推進計画」に、生涯学習分野は「第6次千葉市生涯学習推進計画」にそれぞれ基づき、各施策を実施しているため、両計画の進捗状況を評価することにより、点検・評価を行った。また、令和6年度の新規・拡充事業等のうち4つの事業について、重点的に評価を行った。

(1) 全体の評価について

成果指標

	項目数	◎	○	△	×	—
学校教育分野	64	17	22	1	14	10
生涯学習分野	14	5	8	0	1	0

成果指標	
◎	中間目標値(R9)以上であるもの
○	中間目標値(R9)以下、現状値以上のもの
△	現状値と同水準にあるもの
×	現状値以下であるもの
—	達成率で評価できないもの

アクションプラン

	項目数	順調	遅れ	休止	中止
学校教育分野	86	86	0	0	0
生涯学習分野	85	81	2	2	0

アクションプラン	
順調	計画に対し、概ね計画どおり進捗しているもの
遅れ	計画に対し、事業進捗に遅れが出ているもの
休止	事業を休止し、今後再び実施する予定のもの
中止	事業を中止し、今後も実施しないもの

成果指標の達成状況が「◎」「○」となっている項目は、学校教育分野が約 6 割、生涯学習分野が約 9 割となっており、実施している取組が成果として表れている傾向が見られる。「△」「×」となっている項目は、目標達成に向け、現状分析や今後の方針をしっかりと検討していく。
両計画とも、アクションプランの進捗状況は「順調」の項目が多い。「遅れ」となっている項目については、その原因を分析し、見直しを図っていく。

(2) 重点的に評価する事業について

ア スクールメディカルサポート事業

医療的ケアを必要とする児童生徒のうち、自己対応が難しい場合に対して、医療的ケアを行う看護師(スクールメディカルサポーター)を派遣している。令和6年度、小学校 13 名、中学校 1 名の児童生徒に 22 名の看護師が派遣された(令和7年度は、小学校 12 名、中学校 1 名の児童生徒に 21 名の看護師が派遣されている)。また、看護師の指導的立場の役割を担う、「スクールメディカルアドバイザー」を新設し現在 1 名が派遣されている。

イ 教頭マネジメント・サポーターの設置

教頭等の勤務負担軽減のために教頭マネジメント・サポーターを配置し、在校等時間の削減及びストレス反応の軽減を目指している。教頭が管理職として本来果たすべき役割である学校マネジメントに注力できるようにするために、学校全体の運営をサポートしている。令和 6 年度、退職学校事務職員 2 名を、中学校 2 校に配置(令和 7 年度は、退職学校事務職員 4 名を、中学校 4 校に配置)し、勤務管理事務の支援、施設管理、学校徴収金等の会計管理などにおいて支援を行っている。

ウ 科学教育の推進(千葉市科学館)

科学フェスタにおいては、2 日間で合計 1 万 6000 人以上もの来場があり、令和 5 年度より約 8000 人増加した。出展数も増えるなど、市民が主体的に科学イベントに関わることのできる機会の提供ができています。令和 7 年 1 月にリニューアルオープンしたプラネタリウムにおいては、機器を更新することにより、より多くの恒星をより鮮明に投影することが可能となっている。また、新たな上演プログラムも開発し、より美しい星空と大迫力の映像が楽しめるようになっている。

エ 縄文文化などへの理解・関心の向上(埋蔵文化財調査センター)

加曽利貝塚の現地説明会の開催等を通じて発掘・研究成果を市民に還元するとともに縄文時代に興味・関心をもってもらえる機会を提供している。また、市内の遺跡の発掘調査成果に基づき、郷土の歴史の理解を深める講座やワークショップを実施している。

2 評価委員による評価

小橋委員の意見（報告書 P114～115）

全体について（総括的所見）

- ・第3次千葉市学校教育推進計画について、報告書を元にその内容及び進捗状況を確認した。それぞれの項目において、分析の視点や対応策の検証をしつつ、場合によっては項目の適切さも検討しつつ、経過を確認していったほしい。
- ・学校の中での職務は多様で多くの種類と量がある。教育上の新しい課題は多々あるが、働き方改革とのバランスをとりながら、正規職員・非正規職員の別に関わらず個人に仕事が集中し過ぎないよう、職員の数、仕事内容の質や量、その時々々の状況もふまえ精査を行い、各職員の生活の質の保障も含めて施策内容の検討や、実施をしてほしい。

スクールメディカルサポート事業

- ・令和4年からはスクールメディカルアドバイザー（SMA）の役職が置かれた。SMA（全体を統括）は、各看護師の状況を把握し、各児童生徒のケアが抜けることがないよう采配し、医療的ケアが終了後の児童生徒の対応や、各看護師の相談等も行っている。看護師配置だけではなく、SMAの存在も、スクールメディカルサポート事業において重要な役割を担っている。千葉市において、医療的ケアが必要な児童生徒に全て対応ができているという現在の状況をつくっているのはそのためといえるだろう。
- ・看護師が体調不良などにより勤務につけない際の、代替人員の余裕がない状況が見られた。要請があれば実働可能な待機看護師の確保も今後の課題だろう。それは児童生徒たちの安心感と共に、職員自身が安心して継続し勤務していくことにもつながるのではないだろうか。また、現在、スクールメディカルサポートの説明リーフレット作成の企画があると聞く。医療的ケアが必要な児童生徒本人、保護者、在籍する学校の職員、看護師等、広く関わる人たち自身の理解の一助ともなるだろう。是非、実施内容と共に、各所や人との連携等も分かるような資料を作成していただき、活用してほしい。

教頭マネジメント・サポーターの設置

- ・視察校ではサポーターが入ったことで、校内で教頭が対応する事案でも優先度合の高いことに重点的に対応できるようになったこと、また校内の教職員の事務が円滑に動くようになったこと等が分かった。教頭とサポーターの連携が円滑にいくような日常からのコミュニケーションや、双方が仕事をする場所の配置の工夫があることも確認された。現在、市ではサポーター配置の効果検証もしているところとも聞く。視察校ではよい効果が認められるといえるだろう。
- ・今回の視察での対話の中で、小学校と中学校が求める内容や、学校の所在する地域やその時々々の学校の様子によっても、求める仕事内容の種類や重点事項も異なることが見えてきた。事務上のサポートが必要な場合もあれば、生徒指導に関するサポートが必要な場合もあるだろう。市では学校事情を聴取した上で、サポーター配置をしていることは確認できたが、今後も配置をする際には、引き続き学校の事情を把握し、その学校の状況に合う人材の配置をしてほしい。今後、拡充を考えていく場合は、柔軟な予算措置と配置計画を合わせて検討してほしい。

2 評価委員による評価

岩崎委員の意見（報告書 P116～117）

全体について（総括的所見）

- ・千葉市では、図書館、生涯学習センター、公民館などが整備されており、物理的環境は一定水準以上に充実していると考えられる。
- ・「第6次千葉市生涯学習推進計画」では、学びの活動と地域をつなぐコーディネーターとしての人材の重要性が指摘されている。公民館を身近な地域拠点と位置づけ、社会教育主事有資格者など専門的知見を持つ人材をより一層活用していくことが求められている。生涯学習センターや公民館に限らず、すべての施設において、専門性を備えた適切な人材の配置は、生涯学習施策を進める上での重要な鍵となる。
- ・今回視察した千葉市科学館および埋蔵文化財調査センターでは、学術的知見を有する専門家が常駐し、講座の企画や知識の普及活動に従事している。このことは、プログラムや展示の質を維持するうえで大いに評価される点である。
- ・人材の登用・育成については、引き続き「第6次千葉市生涯学習推進計画」に基づき、生涯学習環境整備の一環として、さらに推進されることが期待される。

科学教育の推進

- ・千葉市科学館において特筆すべきは、市が「科学都市戦略」に基づき、「子どもから大人まで、すべての市民が日常生活の中で科学・技術を身近に感じられる科学都市の創造」を理念に掲げ、科学館を知識の普及・啓発の拠点として位置づけている点である。このような戦略と計画が明示されていることにより、目指すべきビジョンが明確になり、それを実現する道筋が体系的に示される利点がある。
- ・科学館のプラネタリウムは、2025年1月にリニューアルオープンし、天の川を構成する恒星の表示数が1千万個から1億個に増加し星の明るさや色彩の表現がより高精細化された。赤ちゃん連れの親子、児童、生徒、大人といった幅広い層を対象とした多様な企画が実施され、また、科学的内容に加え音楽やアロマを取り入れるなど世代を超えた関心を引いている。とりわけ、教員経験者による学習指導要領に沿ったコンテンツ作成や、学校の希望に合わせた投影は重要な取り組みである。児童・生徒が通う学校の校庭の全方位風景をプラネタリウムに投影し、太陽や月、星空を観察できる「学校スカイライン」などは、地域に根ざした天体学習の優れた実践例であり、児童・生徒が実生活に近い形で学べる真正の教材と言える。

縄文文化などへの理解・関心の向上

- ・埋蔵文化財調査センターでは、遺跡の所在確認や発掘調査といった地道な研究活動を行っている。大型バス用駐車場を確保できない立地上の制約を補完するため、小学校や公民館に出向き、「土器触・講座」「火起こし」「勾玉づくり」「組紐作り」などの体験学習を出前授業として提供していることはセンターの研究活動を広く地域に還元する有意義な取り組みである。特に小学校社会科の縄文文化単元と連携し、多くの学校からの依頼を受けて出前学習を実施しており、身近な教材を通じて縄文文化への理解を深める機会を広く提供している点は高く評価できる。

3 評価委員の前年度の意見に対する対応等（報告書 P118～122）

前年度の事務点検・評価において、評価委員よりいただいた意見に対する対応等を示している。